



平和のモニュメント

紫水ヶ丘公園の「平和塔」と藤山（寺山）山頂の「平和の鐘」を見据えた方向についた遊歩道の交差点に、「世界はひとつ」を象徴する地球や世界連邦マークを模した「平和のモニュメント」を設置。世界連邦マークを仰ぎ見ながら鐘を鳴らすことができる、平和を祈る空間をイメージしています。

※鐘は平常時は鳴らさせません。イベント等で使用したい場合は、企画政策課☎(42)4217へ。



由良川の風を感じる 新たな憩いの都市公園オープン!

市が並松町の旧市民センター跡地に整備を進めてきた新都市公園「あやパーク」が、5月17日にオープン。新たな憩いのスポットが誕生しました。遊びや健康づくり、イベントなどにご利用ください。

施設概要

- 公園面積：約5,900㎡
- ステージ：100㎡
(間口20m×奥行5m)
- イベントハウス：8㎡
(空調、コンセント、ミニキッチン付)
- 多目的トイレ：1棟
- 遊具：トランポリン遊具 1基
インクルーシブ遊具 2基
健康遊具 2基
- 芝生広場：約2,000㎡
- サークルベンチ
- 観覧ベンチ
- 平和のモニュメント
- 駐車場：16台分
- 駐輪場：17台分



イベントハウス

水道や空調、ミニキッチンなどを備えています。利用する場合は事前の申し込みが必要です。

施設利用料	1時間当たり200円 (施設の利用料を含む)
利用可能時間	午前9時～午後10時

※営利目的の場合は2倍の額となります。
※公園内を占用して利用する場合は、別途公園占用料が必要。

問い合わせ 都市建築課☎(42)4285



公園には、広い芝生広場やステージにもなるデッキなどを整備。北側斜面に設置した観覧ベンチでは、あやべ水無月まつりの花火を楽しむこともできます。また、コンテナ型のイベントハウスは電源設備などを備え、希望者へ貸し出します。

さらに園内に、平和のモニュメントも設置。本年、世界連邦都市宣言75周年を迎えることから、平和の大切さを発信する新たな市のシンボルとして整備しました。

市は令和3年、旧市民センターの跡地活用について、アイデアを公募。市民代表で組織する跡地活用検討委員会で議論を重ね、公園にすることを決定しました。総事業費は、約3億1600万円です。



肩や腕のストレッチができる健康遊具



空気で膨らませるトランポリン遊具



障害の有無にかかわらず遊べるインクルーシブ遊具

綾部での就職や移住を応援！ 就職情報ウェブサイト開設

市はこのほど、就職情報ウェブサイト「ジョブタンあやべ」を開設しました。市内企業の求人検索機能やオンライン相談等の就職情報を一元化したウェブサイトです。「ジョブタン」は、仕事を探すという意味の「ジョブ探索」と「UIターン」の2つを掛け合わせたもの。綾部での就職や移住にご活用ください。

「ジョブタンあやべ」の主な機能

企業紹介

綾部市企業ガイドブック2025に掲載している72社（5月1日現在）の事業内容などを紹介しています。掲載を希望する企業は、本サイトの「イベント・お知らせ」ページから登録してください。



求人情報

ハローワークに出されている市内企業の求人情報を閲覧できます。職種や雇用形態などから求人情報を検索したり、企業へ直接、求職申し込みをしたりすることが可能です。

イベント・お知らせ

就職活動に関するセミナーやイベント、相談会などの情報をお知らせします。



制度・補助金

本市での就業や移住に関する補助金等の支援制度が確認できるほか、オンライン就職相談の予約が可能です。



サイトへのアクセスは、下記の二次元コードを読み取るか、インターネットで「ジョブタンあやべ」と検索！

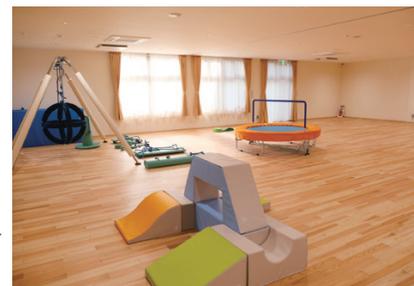
ジョブタンあやべ



※利用は無料ですが、通信料は利用者負担です。



▲施設の外観。屋根には太陽光パネルを設置しています



▶子どもたちが伸び伸びと体を動かすことができる遊戯室

市は5月12日、上野町の旧綾部幼稚園にこども発達支援施設「あむむ」を開設しました。乳幼児期から高校卒業まで、こども園や学校などとも連携した切れ目のない支援を行い、地域の中で子どもとその家族が安心して暮らせる環境を整えます。

こども発達支援施設開所 全ての子どもの健やかな成長を願って

児童発達支援 (療育教室)

対象 おおむね1歳以上の未就学児
人との関わりや遊びを通して自信や意欲を育みます



放課後等 デイサービス

対象 小学生
放課後や夏休みなど学校の休業日に自立支援や余暇支援を行い、社会参加を促します



3つの事業で 発達に支援が必要な 子どもの成長をサポート

保育所等訪問支援

対象 こども園や幼稚園、学校などに通う18歳未満の子ども
園や学校と連携を図りながら、集団生活になじめるよう支援します



発達に寄り添いきめ細かく支援
施設は、子どもの発達を総合的に支援する体制の強化・充実に図ることを目的に整備。鉄筋コンクリート造一部木造平屋建て、延べ床面積約890平方メートルで、施設内には活動室や遊戯室、相談室、検査室などを設けました。総事業費は約4億8千万円です。

同施設では、これまで保健福祉センターで行っていた児童発達支援（療育教室）に加え、新たに放課後等デイサービスと保育所等訪問支援の事業を実施。保健師や保育士、作業療法士などの専門職員が、保護者の不安にも丁寧な耳を傾けながら、子ども一人ひとりの発達に寄り添ったきめ細かなサポートに当たります。利用方法など詳しくは、市ホームページ（記事ID5118）をご覧ください。か、同施設 ☎(21)9037(21)9038へ。

情報流通プラットフォーム対処法の主な内容

- 日本の法令や文化的・社会的背景を熟知した専門員の配置
- 削除基準の策定と公表
- 削除要請を受け付ける窓口の整備
- 削除の申し出があった場合、7日以内に対応を判断して通知 など

※正式名称は「特定電気通信による情報の流通によって発生する権利侵害等への対処に関する法律」



誹謗中傷などが社会問題に
インターネットの普及に伴い、匿名性や情報発信の容易さを悪用した▽個人への誹謗中傷▽プライバシーの侵害▽交流サイト(SNS)等でのネットいじめ▽特定の

シリーズ 人権を考える インターネットの人権侵害

民族や国籍の人々を排斥する差別的言動(ヘイトスピーチ)▽特定の地域を同和地区であると指摘するような投稿などが社会問題化しています。こうした被害への対策として4月、「情報流通プラットフォーム対処法」(※)が施行されました。一定規模以上のSNS事業者等に中傷などの投稿への対応を義務付けるもので、インターネット上での人権侵害の被害拡大防止が期待されます。

発信内容には責任を
インターネットは便利な一方で、不確かな情報を安易な気持ちで発信すると、予想もしない大きな人権侵害につながり、加害者になってしまう場合があります。自分が発信する内容には責任が伴います。SNS等に投稿する前に、誰かを傷つけないかどうか、情報の提供元が信頼できるかどうかなど、一度立ち止まって考えましょう。

資料館だより

受講生募集 市制施行75周年記念事業

令和7年度 古文書講座

日時 7月19日(土)、8月23日(土)、9月27日(土)、10月25日(土)、12月20日(土)

時間 午後1時30分～3時

場所 中央公民館(里町)

定員 50人(申し込み多数の場合、市民優先で抽選)

受講料 300円(資料代)

申し込み ①住所②氏名(ふりがな)③昼間に連絡がつく電話番号④メールアドレスかファクス番号一を記入し、メールかファクスで6月23日(月)までに社会教育課か資料館へ

主催 市教育委員会

共催 綾部史談会

問い合わせ
●社会教育課(平日) ☎(42)4328
●資料館(土・日曜日、月曜日除く祝日) ☎(43)1366
☎(43)2134

12月20日は歴史講座を予定!

▲WEB申し込みも可能

手話でつながろう

今月の手話

申し込み・申請

片手の手のひらに、もう一方の手の人差し指の指先をつけ

前に出す

協力：京都府聴覚障害者協会綾部支部

Q. 小規模特認校制度とは?

A. 少人数による学習で特色ある教育活動を推進する市内の小規模な小学校に、通学区域外の児童が就学することを認める制度です。

Q. どの小学校が小規模特認校になりますか?

A. 物部・志賀・東八田・東綾・上林小学校の5校です。

Q. どの小学校の児童が制度を利用できますか?

A. 綾部・中筋・豊里・吉美・西八田小学校に就学する児童が対象です。

Q. どんな手続きが必要ですか?

A. 小規模特認校への就学を希望する場合は、学校見学や通学の相談の上、9月30日(火)までに、学校教育課に申請書を提出してください。申請書は、市ホームページ(記事ID5389)からダウンロードできます。

詳しくはこちら→

令和8年度から 小規模特認校制度スタート

市教育委員会(以下、市教委)は、令和8年度から小規模特認校制度を実施します。制度の導入により、小規模校の特色を生かした教育の充実と活性化につなげます。

市内の小規模校では、児童が少人数であることを生かし、自然豊かな環境の中、特色ある教育を推進しています。同制度の導入により、小規模校への就学を希望する市内の児童が、現在の居住地のまま入学・転学が可能に。来年4月の就学に向けて、申請を受け付けます。

また市教委は、小規模校の魅力や特色ある教育活動、制度の内容を紹介する動画を作成予定。完成した動画は、市ホームページなどに掲載します。

詳しくは、学校教育課☎(42)4323へ。

善聞語録

小さな窓

コロナ禍で行動制限が課せられた時期、リモートによる英会話レッスンを始めた。比較的時間に余裕ができたのと、国際舞台にあった前職時代に比し英語を使う機会が減り、英会話能力の低下が気になっていったこともある。また娘に薦められたフィリピン発のWeb教室は時間や講師を自由に選択でき、30分ワンコインという低価格も決断を促した。当初はどれくらい続くか案じたが、コロナ禍が明けても細々とではあるが継続し今に至っている。その要因は、単なる英会話レッスンに留まらず、会話を通して彼の国の世相や一般国民の日常生活、価値観に触れることができるからだと思う。居ながらにして他国の天候や若者の夢、流行モノや物価水準などを学べるのは楽しいものである。

市長就任以降、国際的な感覚を子どもの頃から身につけてほしいとの思いで、英語教育に注力してきた。市内中学生のオーストラリア留学や英語検定の無料化、留学生との交流キャンパスや英語漬けのキャンパス等々、地方都市ながら小さくとも世界に通じる窓を開け、グローバルな空気を取り入れたい一心から始めた事業である。

一方、ビジネスの世界では企業の海外展開はもはや当たり前前で、市内立地企業の社員にとっても海外への出張や転勤は日常茶飯事になっている。願わくば本市の子どもたちが将来、地元企業の社員として世界を駆け巡ることを期待している。そうなれば子ども向けの小さな窓から世界を見て国際理解に目覚めた経験も生きてくるというものだ。

75年前、本市は世に先駆けて世界連邦都市宣言を行った。荒れ果てた国土と飢えにあえぐ戦後間もない時期に発せられた宣言文には、市民の進取の気性と併せて地球市民の一員でありたいとの願いが託されている。今を生きる我々には、その先人の意志を引き継ぎ、更に磨いて次の世代に繋いでいく使命がある。

山崎善也(綾部市長)